

脂質研究から神経科学へ そしてそれらの融合へ

講師：服部 光治 教授
名古屋市立大学 大学院薬学研究科
病態生化学分野



日時：2022年2月10日（木）17:00～
場所：名古屋市立大学桜山キャンパス
医学部研究棟11階 講義室B

本セミナーはZOOMによるオンライン配信も致します。オンラインでの参加は下記URL又はQRコードからログインしてください。

URL：<https://us02web.zoom.us/j/84902156169>



私は薬学部の脂質代謝の研究室で研究者のキャリアを開始した。そこで精製した脂質分解酵素の遺伝子がたまたま滑脳症の原因遺伝子Lis-1であったことから神経発生に興味をもち、米国に留学して軸索誘導の研究を行った。帰国後、神経発生の研究をするつもりで御子柴克彦先生の研究室に入ったが、そこでの研究はほぼ全てIP3受容体関連だった。それは非常に面白かったし勉強になったが、御子柴先生に頼んでリーリンの研究も開始させてもらった。その後、名市大では主にリーリンの研究に取り組んだが、自分は考えていなかった・できると思えなかった研究を、優秀な学生達がしてくれたという気持ちで非常に強い。この間、神経科学業界では、DNA・RNA・タンパク質の大規模データを取得して全てをシステムで理解するという潮流が強くなったが、その一方、脳の脂質の多様性と機能については理解が進んでいない。私は、脂質を理解せずに生物や疾患が判るわけがない、という学生時代の考えに立ち戻り、近年、神経細胞膜の非対称性と流動性の研究にシフトしつつある。今回は特に、酸性リン脂質フリッパーゼの研究についてお話ししたい。

世話人：山川和弘（医学研究科・神経発達症遺伝学分野）
TEL: 052-851-5612, E-mail: yamakawa@med.nagoya-cu.ac.jp